

【レジメン概要】

適応病名 (癌腫)	小細胞肺癌	レジメン名 (略号)	R040 short hydration CDDP+ETOP	
実施部署区分	<input checked="" type="checkbox"/> 入院 <input type="checkbox"/> 外来 <input type="checkbox"/> 治験/臨床試験			
適応分類	<input checked="" type="checkbox"/> 進行・再発 <input type="checkbox"/> 術前化学療法 <input type="checkbox"/> 術後化学療法 <input type="checkbox"/> その他			
適応ライン	<input type="checkbox"/> 1次 <input type="checkbox"/> 2次 <input type="checkbox"/> 3次 <input type="checkbox"/> 維持療法			
投与日/コース(サイクル) /休薬日数 /使用コース数(標準)	投与日 (d1,d8など)	d1,2,3	コース(サイクル)	21 日間
	休薬日数	18	日間	
	使用コース数	4-6	コース	
内服併用	<input type="checkbox"/> あり	<input checked="" type="checkbox"/> なし		
放射線療法	<input checked="" type="checkbox"/> あり	<input type="checkbox"/> なし		

【抗がん剤 投与内容】

Rp	薬剤	催吐 リスク	投与ルート	投与量	投与時間・ 投与速度	投与日
1	CDDP	高	末梢点滴	80mg/m ²	250ml/hr	d1
2	ETOP	軽	末梢点滴	100mg/m ²	250ml/hr	d1,2,3

投与基準 day1,2,3	白血球数	3,500 / μL	sCr	-	mg/dL
	好中球数	2,000 / μL	CCr	60	mL/min
	Hb	9 g/dL	T-Bil	2	mg/dL
	PLT	100,000 / μL	AST	100	IU/L
			ALT	100	IU/L
	その他	PS0~2、原則75歳未満			

減量基準	副作用時の減量方法	Grade4以上の血液毒性にて、エトポシドおよびシスプラチンの20~25%減量
	腎機能障害時の減量	【エトポシド】血清クレアチニン1.4mg/dL以上で30%減量する。 【シスプラチン】腎機能はCcrのみ。Ccr; 60mL/min未満は、中止。
	肝機能障害時の減量	【エトポシド】総ビリルビン値; 1.5~3.0mg/dLにて50%減量する。3.0mg/dL以上は中止。 【シスプラチン】軽度から中等度の肝機能障害では、減量の必要なし

エビデンス資料 ★必須★	<input checked="" type="checkbox"/> ガイドライン	ガイドライン名	日本肺癌学会 肺癌診療ガイドライン 2013年版
	<input checked="" type="checkbox"/> 文献	文献名	①(放射線併用)JCOG 9104 ②(放射線非併用)K Noda et al;N Engl J Med. 2002 Jan 10;346(2):85-91.
	<input type="checkbox"/> その他	提出書類名	

備考欄 【副作用対策、指示など】	<p>★ short hydration法適応レジメンのため、尿測、体重測定、強制飲水は必要無。 (エトポシド添付文書)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●結晶が析出することがあるので0.4mg/mL濃度以下になるよう生理食塩液等の輸液に溶解して投与すること。 ●1.0mg/mL以上の高濃度でのポリウレタン製のカテーテルの使用を避けること。 ●DEHPを含むポリ塩化ビニル製の点滴セット、カテーテル等の使用を避けること。 ●1.0mg/mL以上の高濃度でのセルロース系のフィルターの使用を避けること。 ●アクリル又はABS樹脂製のプラスチック器具の使用を避けること。 ●ポリカーボネート製の三方活栓や延長チューブ等を使用した場合、そのコネクタ一部分にひび割れが発生し、血液及び薬液漏れ、空気混入等の可能性があるため注意すること。 <p>(シスプラチン添付文書)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●クロールイオン濃度が低い輸液を用いる場合には活性が低下するので必ず生理食塩液と混和すること。 ●アミノ酸輸液、乳酸ナトリウムを含有する輸液を用いると分解が起こるので避けること。 ●アルミニウムと反応して沈殿物を形成し、活性が低下するので、使用にあたってアルミニウムを含む医療用器具を用いないこと
---------------------	---